昭和56年・フリーハンデ決定

ホウヨウボーイに高い評価

三歳馬は粒揃いで'82年が楽しみ

本誌のフリーハンデは昭和37年に始まり、今年で20年目を迎えた。金杯に始まり、有馬記念で幕を閉じた昭和56年の競馬。過去の思い出の名馬たちと比較して、昭和56年の各馬の実力はハンデキャッパーの目にはどう映ったか。美浦、栗東、本部の9人のハンデキャッパーの長時間にわたる討議の末、昭和56年のフリーハンデが決定した。

出席者

●美浦トレーニングセンター

今原照之

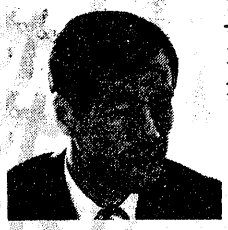
柴田　裕

岩沢弘文

岡部龍文

●栗東トレーニングセンター

各務富也


岩片将士

甲佐　勇

吉田武徳

●本部審判部

小林　茂

フリーハンデとは……

通常のレースのハンデキャップは、出走馬の実績、調子などさまざまな観点から負担重量を決定し、出走馬の〝実力〟を均等のものとしてレースを争わせようとするものです。

これに対して、フリーハンデは、その年度の競走馬の〝格付け〟をするものです。この〝格付け〟は単にその年度の各馬の実力比較にとどまらず、歴年の名馬の実力比較ともなります。ヨーロッパでは長いフリーハンデの歴史があり、年齢別のハンデだけでなく、距離別の全ヨーロッパのハンデがつくられています。これは生産界への指標ともなるもので、重要な意義をもっています。

'81年をみると、'75年の二冠馬カブラヤオーが63キロのハンデですから、同様の二冠馬カツトップエースの62キロは、カブラヤオーが上位、と判断されたわけです。また、この年の三歳馬はテンポイントが56キロ、古馬ではフジノパーシアが62キロになっています。'81年と比較してみてください。

四歳馬 やや小粒な感はあるが

カブラヤオー以来6年ぶりに二冠馬が誕生した四歳クラシック戦線。二冠馬の格が重視され、カツトップエースが62キロのトップハンデ。

二冠馬のエース、格を重視して

――まず、四歳馬から始めたいと思いますが、皐月賞、ダービーを制したカツトップエースの評価から入っていただきましょうか。

柴田 カツトップエースは札幌からデビューした馬で、三歳時に2勝していますが、先行力がある割に、比較的軽視されていたんですね。それが四歳になってから、八百万条件のバイオレット賞を四着したあと、皐月賞を勝ち、NHK杯二着、ダービー優勝というステップを踏んだ。二冠を制覇したことは、かなり評価しなければいけないと思いますね。ただ、ことしの四歳馬を見渡したとき、とくに傑出した馬というのが見当らないんです。レベル的に差がないというわけでもないんですが、層が薄いという声はいなめませんね。だから、カツトップエースから入るにしても、トライアルを全部勝ち、本番では勝てなかったサンエイソロンとの比較が問題になると思います。

今原 僕もカツトップエースが抜けた存在という印象は持っていないんです。たしかに、二冠を制しているから、それは評価されなければいけませんが、少しさかのぼった時期の四歳馬と比較すると、50年のカブラヤオー、51年のトウショウボーイのフリーハンデが63キロ、49年のキタノカチドキが64キロですね。こういったメンバーとの比較からいくと、僕はカツトップエースは62キロと思っています。

岡部 僕もことしの四歳馬は、例年に比べてやや弱かったんじゃないかという印象を持っています。ただ、カツトップエースとサンエイソロンの比較ということになると、競走馬はあくまで本番を目指して調整されていくわけですから、サンエイソロンがトライアルをすべて勝っているといっても、二冠を制したカツトップエースとは差があってしかるべきだと考えます。二冠はかなり評価しなければならないでしょう。例年の馬との比較からいって、62キロは妥当だと思います。

岩沢 カツトップエース、ミナガワマンナ、サンエイソロンの力関係の比較は、非常に難しいし、甲乙つけ難いと思います。それでも、二冠制覇を考えると、カツトップエースを評価すべきでしょう。

甲佐 僕にも強烈な印象は残っていないんです。ただ、ここ数年はクラシックの勝馬がすべて違っていましたね。それから見ると、皐月賞とダービーを勝ったカツトップエースをここ数年のトップランクの馬以下に置くわけにはいかないと思います。63キロまでは無理でしょうが、やはり62キロというところですね。

各務 目方としてはその程度だと思います。ただ、フリーハンデを決めるうえで、全体的な層の比較が基礎にならなければなりません。そういった意味で、ことしの関西馬は皐月賞でロングミラーが二着にきただけで、非常に層が薄かった。ヒロノワカコマ、リードワンダーという期待された馬が故障したのは惜しまれますが、その他休養した有力馬が無事であったとしても、抜けた馬はいませんでしたね。秋になって成長がみられ、来年度の活躍が見込まれる馬はいますが、とにかく春の関西勢は散々というか、淋しい限りでしたね。その結果、カツトップエース、ミナガワマンナ、サンエイソロンの三頭が抜け出した形になっています。ただ、サンエイソロンは前年のモンテプリンスと同じで気の毒な面がありましたね。

柴田 ヒロノワカコマ、リードワンダーが挫折したといっても、この二頭では、昔のヒデハヤテあたりと比較すると、ちょっと差があるのではないかな。

小林 四歳馬の一生に一度のチャンスであるクラシックを、とれた馬ととれない馬とでは、おのずから差があってしかるべきだと思います。だから、当然カツトップエースとサンエイソロンには差をつけなければなりません。

岩片 感覚的な強弱ということもあるだろうけど、フリーハンデを決める場合には、勝ったレースの格付けを重視すべきだと思いますね。これは中央競馬会のレース体系の中で、どのレースを勝ったかということは、重要な要素です。だから、たとえ鼻差であっても、ダービーの一、二着には大きな差があるという基本的な考え方があると思います。カブラヤオーと比べると力量的にちょっと足りないという感じはあっても、皐月賞、ダービーに勝った価値を認めて、カツトップエースを63キロにしたい気持ちはあります。

吉田 二冠をとったことで、カツトップエースとカブラヤオーの比較がひとつの軸になるのは当然のことでしょうね。その点で、関西馬がほとんど挫折していたことを考え合わせて、ことしは50年よりも四歳馬の質が落ちると思います。63キロまではつけられないと考えています。

小林 関西が期待していた馬が、東上はしたものの、故障で使えなかったということはあったにしても、そのメンバーが、仮に無事で出走したとしても、カツトップエースの上にくる馬がいたかという点は、ちょっと考えにくいんですね。だから、いい意味でいえば粒は揃っていたということになるし、悪くいえばやや小粒であった。二冠の事実を認めても、カツトップエースは62キロでいいと思います。

サンエイソロン、ミナガワマンナ61キロ

――それではカツトップエースは62キロに決めたいと思います。ただ、単独で62キロか、それとも並ぶ馬がいるかということになりますが。

小林 単独トップで良いと思います。

柴田 問題はサンエイソロンですね。少くともこの馬には年間を通しての実績があります。四歳馬のローテーションとして皐月賞の取消しがあったにせよクラシック路線にすべて乗ってきているわけです。しかも京都新聞杯の勝ち方は見事なものだった。ここで、外国での馬の評価について少しふれますと、ヨーロッパでは馬の評価というものは、どういう格の競走に勝ち、どんなメンバーと戦ったかという点に大きなウエイトがおかれているわけです。アメリカでは、他に出走回数が多い事もありますが、これに収得賞金の面も大いに加味されているわけです。日本はその中間的な考え方になりますね。重賞レースの賞金面でもそれほど

の格差が少ないという点を加味すると、サンエイソロンの評価はあげてもいいかもしれない。私はカツトップエースと並べてもよいと考えています。

吉田　ダービーでも菊花賞でも僅差で負けているんですね。だから、素質的に見て、カツトップエースより強いのではないかという印象を与えるのも確かです。しかし、カツトップエースは二冠をとった。私は差をつけてもいいという意見です。

小林　サンエイソロンは強いと思いますよ。トライアルをすべて勝って、本番でも力はあるという感じを受けているのも事実です。一方のカツトップエースは秋に出走がない点がたしかに単独トップに置くには弱い点かもしれない。しかし二頭の馬の間には1㌔の差があると見ます。

柴田　結論的にはそうなるんだけど、去年の例もあるからね。去年もモンテプリンスの内面的な強さをめぐって議論があった。ちょっと条件が違うとすれば、去年はハギノトップレディという強い牝馬がいた。それでハギノトップレディの60㌔に対して、モンテプリンスは61㌔という評価になったわけなんだね。サンエイソロンとモンテプリンスの比較にはその周囲の構成メンバーを洗わなければならない。しかし、トライアルを三つとも勝ち、本番も共に二着、という点を考えると、サンエイソロンはモンテプリンスの上にいくかな。

甲佐　モンテプリンスにとっては去年の春シーズンは、ほとんど道悪でした。その点は不運だったですね。

各務　オペックホースは皐月賞二着のダービー一着でしょう。皐月賞、ダービーの二冠馬はカツトップエースで10頭目になります。なかなか出来るものではありません。そこに一応の基準を置かなければならない。サンエイソロンの強さを認めるというひとつの意味を残しながらの61㌔ということにならないかな。

柴田　賛成だね。

岩沢　ミナガワマンナは秋になって力をつけて菊花賞に勝ったけど、春のクラシックを振り返ると、サンエイソロンよりひとつ下あたりと判断したいですね。

岡部　実力的にはカツトップエース、ミナガワマンナ、サンエイソロンの三頭は並んで見ていいと思うし、やはり、競走の格を重視すれば、ダービーに次ぐ四歳馬の頂点である菊花賞を勝ったミナガワマンナは評価しなければならない。少なくともサンエイソロンとは並んで61㌔ではないかな。

柴田　菊花賞は力がなければ勝てないからね。これを勝ったということは評価すべきだ。サンエイソロンは、内面的というか、潜在的には強いという評価をしていますけどね。

甲佐　菊花賞で4馬身の着差を考えると、ミナガワマンナも強いですよ。

岩沢　多少死角はありますけどね。

今原　四歳の初めのころ、強い馬だとは見ていたんです。それで、四歳中距離ステークスを勝ってきたんだ。ダービーは8着だけれども、ミナガワマンナは菊花賞を強い勝ち方をした。やはり、サンエイソロンと並んで61㌔で良いでしょう。

小林　この三頭を除くと、あとがちょっと見当らないですね。かなりの差があるでしょう。牝馬の方が話題になってくるのかな。

牝馬は粒揃い

岩片　そうですね。有馬記念でもアグネステスコがミナガワマンナに先着しているんですからね。

柴田　そうそう。52年のプレストウコウが、有馬記念ではまるで勝負にならなかったことを考えると、アグネステスコの六着は立派ですね。

各務　四歳牝馬で急拠東上したというかなりのハンデを背負っての好走ですからね。

今原　去年の三歳時から振り返ると、とにかく関東では牝馬上位で、テンモンが朝日杯、京成杯を勝って牡馬の頭を押さえていたんですからね。そのあとに、トドロキヒホウが弥生賞、東京四歳ステークスを勝って、皐月賞まではクラシックのいちばん近い位置に立ったわけです。そういった点を考えても、牝馬の評価が先になるのもやむを得ないでしょう。

柴田　牝馬は三頭の検討から始めればいいんじゃないかな。ブロケード、テンモン、アグネステスコとね。

岡部　テンモンは春だけの成績しかないが、京成杯とオークスに勝って、桜花賞が二着。ブロケードは阪神四歳牝特、桜花賞、牝馬東タイ杯を勝っているけど、オークスが十三着。

柴田　距離の長いところで惨敗しているんだね。短距離の実績はすばらしい。これは距離の適性を評価しなければいけないんじゃないかな。

今原　競走の格での評価を重視はしますが、短距離で強かった馬と長距離で強かった馬とは同格として扱うべきだと思いますね。

甲佐　いずれにせよ、ことしの四歳馬は、牡馬より牝馬の方が、内容的には揃っていたという印象がありますね。52年のインターグロリア、リニアクイン、アイノクレスピンといった顔ぶれにはおよばないにしても。

柴田　52年は強かったからね。最近ではいちばん強かったんじゃないかな。

岡部　エリザベス女王杯はクラシックで

'81年のフリーハンデ

四歳馬

62		カツトップエース
61		サンエイソロン
	父	ミナガワマンナ
59	※	アグネステスコ
	※	テンモン
58	※	ブロケード
57		ヒロノワカコマ
		トドロキヒホウ
	父	リードワンダー
		ホーワセキト
	父	メジロティターン
56	外	タクラマカン
55	※	カバリエリエース
54		アグネスベンチャー
	※	エイティトウショウ
		アリーナオー
	地	ステイード
		ロングイーグル
	※	タケノダイヤ
		ロングミラー
		ホクトオウショウ
53	※	オオシマスズラン
		スーパーサバンナ
	父※	ニシノチェニル
	※	スーパーファスト
52	父	アジシバオー
		アカネハチマン
	父	ウエスタンコナーズ
		エナオーギ
		キタノコマヨシ
		キヨヒダカ
	父市	ダイタクプロスパア
	父※	キンセイパワー
	市	ダイマンテン
	※	サクラスマイル
		チェリーオー
	※	シャッフィー
		スズフタバ
	※	ダイナビクトリア
		ビゼンシキシマ
		ビンゴハイデン
		マーベラスヒエン
		ミホバルカン

(43頭)

※牝馬　抽せん馬
父父内国産馬　公公営出身馬
外外国産馬　市市場取引馬

はないけど、牡馬の菊花賞に匹敵するものと見ていいでしょう。アグネステスコは、春はテンモンとブロケードにかなわなかったにせよ、秋の充実度というか、成熟度を見ると、評価できると思いますね。神戸新聞杯、エリザベス女王杯に勝って、有馬記念六着。テンモンとは並べられます。

今原　テンモンは春時期は牡馬より上位の成績を残していたのだから無事であれば、牡馬にまじってもやれる馬だと思いますね。だから、アグネステスコとテンモンは互角の評価でいいのではないか。

柴田　それにブロケードを加えて、三馬は春には顔を合わせているんだね。それで、桜花賞がブロケード、オークスがテンモンで、当時はアグネステスコは遅れをとっていたわけだ。

今原　テンモンの桜花賞二着は、レース振りから力を認められますよ。

柴田　ただ、去年のハギノトップレディを引き合いに出すと、あの馬はオークスで負けても、エリザベス女王杯でちゃんと挽回しています。だから、ことしの三頭の馬とは力の差があると思いますね。

小林　去年のハギノトップレディが60キロになったのは、距離の適性よりも、結果として、短いところの桜花賞と、長いところのエリザベス女王杯を勝ったことが、大きなポイントになっています。ことしの牝馬については、東ではテンモン、西では有馬記念の結果まで見たうえでアグネステスコを並べていいと思いますね。問題はブロケードで、総合的に見て並べてもいいと考えていたのですが、ひとつ下で良いと思います。

岡部　牝馬の場合、桜花賞、オークスの間が六週間で、東西の地区を異にする施行場で行なわれるということもあって、近年は最初から桜花賞を見送るケースが見られるんですね。だから、とくにブロケードのことをいうわけではありませんが、桜花賞の評価にも、かなりのウエートをおかなければならないですね。

柴田　距離の適性を含めてのことでね。

――　牝馬三頭については、テンモンとアグネステスコが同格で、ブロケードをひとつ下に置くとして、牡馬との差をどれくらいに見ますか。

柴田　歴年の四歳馬と比較した場合、全体的にはややおちるが牝馬は逆に充実していましたね。差を近づけてもいいんじゃないかな。

今原　確かにことしの牝馬は強いです。

岡部　テンモンの春の実績から判断すれば、それほど牡馬と差をつける必要はないですね。2キロかな。

岩沢　そうするとテンモンとアグネステスコが59キロ、ブロケードが58キロが妥当でしょう。

故障馬が多かったのは残念

今原　次にくるのはホーワセキトとトドロキヒホウの二頭。これに加えるとすれば、タクラマカン、メジロティターンというところでしょう。

岩片　タクラマカンは1キロ下にしてはどうでしょうか。

甲佐　関西ではヒロノワカコマとリードワンダーですね。

各務　ヒロノワカコマはシンザン記念と毎日杯、リードワンダーはきさらぎ賞を勝っているからね。

柴田　このなかではホーワセキトじゃないですか。函館記念を勝って、ダービー卿は二着。ただ、この馬の試金石と見なければならないのはセントライト記念だと思いますね。同年代のメンバーと顔を合わせて三着、そして、菊花賞が四着ということになる。

今原　ホーワセキトは函館の新馬で強い勝ち方をしたあと、骨折しました。だから、ダービーの時点では一勝馬でクラシックには出れなかった。そのあと、エーデルワイスSと松前特別という八百万条件を二連勝して、函館記念に勝った。力は評価されると思います。

岩沢　57キロではないかと思いますけど。

甲佐　去年のサーペンプリンスが55キロでやはり函館記念を勝っていますね。それで菊花賞が四着、フリーハンデでは59キロをつけていますけど、サーペンプリンスは年間を通しての実績がありますからね。スプリングステークスを勝ち、京成杯でも三着にきている。

柴田　ホーワセキトは57キロでしょうね。それで関西のヒロノワカコマとリードワンダーが並べましょう。

吉田　トドロキヒホウの扱いはどうしますか。

各務　振り返ってみると、トドロキヒホウも強かったですね。重賞ふたつ勝っているわけでしょ。どうしても、秋の活躍馬の印象が強くなりますけど、皐月賞までのトドロキヒホウは強かった。

今原　とくに東京四歳ステークスの勝ちっぷりは強かったですね。

甲佐　57キロにホーワセキト、トドロキヒホウ、ヒロノワカコマ、リードワンダーが並びますね。

五歳以上　ホウヨウボーイに高い評価

ジャパンカップを無視しては'81年の古馬戦線は考えられないが、秋の天皇賞を制覇したホウヨウボーイに高い評価が与えられた。

春・秋の天皇賞馬の比較

――　では、古馬に移っていただきます。まず、東と西でかんたんにおさらいをしながら、やっていただきましょうか。

各務　ホウヨウボーイとカツラノハイセイコの力の評価が問題になると思いますね。ホウヨウボーイについては、ジャパンカップをはさむローテーションで、あれだけ息の長い活躍をした点を、かなり評価したいと考えています。それにひきかえ、カツラノハイセイコは、秋の出走がまったくないのですが、春の天皇賞を勝っていますし、去年の有馬記念で接戦したホウヨウボーイとの兼ね合いがポイントになりますね。それと関西馬では、カツラノハイセイコと好戦したカツアール、関東ではどうしても勝てなかったモンテプリンスと、有馬記念を勝ったアンバーシャダイのランクづけが、意見が分かれるところではないでしょうか。

今原　トップグループを形成するのは、ホウヨウボーイ、モンテプリンス、カツラノハイセイコ、アンバーシャダイの四頭で異論のないところだと思う。それぞれ特徴を持った馬だし、このなかで、有馬記念を勝ったアンバーシャダイの評価が難しいところですね。去年の古馬も、

例年に比べて弱いという意見があったわけですが、ことしもどれを頂点にもってくるかで議論があると思います。

岩片　今後、ジャパンカップの評価がどうなるかがひとつの焦点になってくるのではないかと考えているのですが、天皇賞、ジャパンカップ、有馬記念を走り抜いたホウヨウボーイの年間を通じた活躍は、かなり高い評価を与えていいと思いますね。頂点はこの馬でしょう。

今原　ジャパンカップの新設で、一流馬のローテーションの見直しが行なわれたわけですね。フリーハンデの場合、レースの格を重視していたわけだけど、例えば、毎日王冠、オールカマーといったレースが、去年と置いている場所が違うし、従って、出走してくるメンバーにも違いがでています。このことを格付けする場合にどう見るかが問題になってくるでしょう。

小林　それは当然頭にいれてやっていかなければなりませんね。

吉田　ローテーション的に、ジャパンカップが入って窮屈になったのは事実です。それでも、疲労も見せずに、見えないところに疲れはあるかもしれませんが、キチッと走ってくれたのは良かったですね。もちろん、何年か続けてみなければ、分からないことですけど。

柴田　ことしの古馬については、上位にランクされている馬が、無事に使われたというのがひとつの特徴ですね。そして安定した成績を残している。だから、昨年よりは力があると見ていいでしょう。残念だったのは、これから活躍を期待されたウエスタンジェット、ドロッポロード、ウエスタンジョージの挫折ですね。さらに、つけ加えれば、上位の馬に特徴のある馬がいたということね。例えば、キタノリキオーとかサクラシンゲキとかね。それと秋に入って五歳牝馬の活躍が目立ちましたね。

岡部　まったくその通りですね。

今原　ジャパンカップに選んだ八頭は、その後全部走っていますからね。七頭が有馬記念に出走して、ラフオンテースは阪神大賞典に使っています。

柴田　よくマスコミでも使われる〝三強〟という型がことしは当てはまらなかった。ホウヨウボーイを一応の頂点にして、五、六頭が差がなく肉迫しながら上位グループを形成しているというのも今年の特徴だね。

甲佐　力という点では、これから先は、ジャパンカップがいちばん重視されてくることになるでしょうね。

柴田　ただ、ジャパンカップは頭数が制限されるというネックがありますね。

――　それでは具体的に話を進めていきますけど、ホウヨウボーイ、カツラノハイセイコ、アンバーシャダイの関係について議論を進めてください。

岩沢　ホウヨウボーイは、前年の有馬記念を勝って61㌔にランクしたんですね。去年はカネミノブ、ニチドウタローと並びの61㌔でしたが、ここからの兼ね合いがひとつのポイントですね。

今原　ホウヨウボーイは秋の天皇賞を勝っているんだから、トップにランクするのは当然でしょうね。それと、アンバーシャダイが、去年のホウヨウボーイと似たような評価にならざるを得ないと思うけど。

柴田　アンバーシャダイはもともと強い馬ではあったが、春は条件馬。しかし秋に入って目黒記念を勝って、有馬記念を制した。この辺の評価が微妙ですね。

今原　ただ、目黒記念は去年までは天皇賞のステップということだったが、ことしは、やや手薄なメンバーでやらざるを得なかったということはいえますね。

柴田　そのあたりの評価は微妙だけど、とにかく伝統のあるレースを勝った。春は条件馬だったけど、秋の充実は著しいですね。

岩片　ホウヨウボーイ62㌔、アンバーシャダイとカツラノハイセイコを61㌔あたりの評価になると思いますが。

小林　去年の有馬記念でホウヨウボーイとカツラノハイセイコが微差でしたね。ことしは二頭とも天皇賞をとっている。それにホウヨウボーイはＡＪＣに勝っていますから、当然61㌔からはあげなければならないでしょう。

今原　カツラノハイセイコの切れ味も捨てがたいんですね。いまだにダービーをとったときの切れが忘れられないんですよ。並べて62㌔はどうか。

柴田　そうね。あれだけの切れ味を持つ馬はそうザラにはいないね。

秋の天皇賞に重味があった

甲佐　ただ、ことしの天皇賞は、春と秋を比較すると、メンバー的に秋に重味があったような気がするんですよ。

各務　そうですね。春は関東の一線級ではメジロファントムとリンドプルバン以外西下してこなかったですからね。しかし、カツアールとカツラノハイセイコは天皇賞―宝塚記念と続けて好勝負しています。カツラノハイセイコがいたからだという見方もありますが、カツアールはそう低い評価はできないと思います。

柴田　それではホウヨウボーイの63㌔でどうだろう。52年のグリーングラスを抜くことになるけど。そこまでもっていっていいんじゃないかな。

甲佐　あげるのには異議ないけど、62㌔か63㌔かが難しい。

岩沢　63㌔が妥当な線だと思いますね。

'81年のフリーハンデ

五歳以上

63		ホウヨウボーイ
62	㊊	カツラノハイセイコ
61		アンバーシャダイ
60	㊛	カツアール
		モンテプリンス
59	※	ハギノトップレディ
	㊊	キタノリキオー
		サクラシンゲキ
58	※	ラフオンテース
		ウエスタンジェット
	㊛	ゴールドスペンサー
57	㊊	ウエスタンジョージ
		サーペンプリンス
	㊊※	ジュウジアロー
		オペックホース
	㊞	ドロッポロード
	※	ハセシノブ
		ハワイアンイメージ
		メジロファントム
56		イナドコトブキ
	※	タケノハッピー
		ハシクランツ
	㊊	ピュアーシンボリ
	㊟	リンドプルバン
55		ノトダイバー
		タケデン
		メトロジャンボ
	㊊※	フジマドンナ
54		オーバーレインボー
		シンボリフレンド
		ケンセイグット
	㊛	サツキレインボー
53	※	ケイキロク
	㊛	ブラビオー
	※	タニノテスコ
		テルノエイト
	㊛※	ロイヤルスズラン
	㊊	ロビンソンシチー
52	㊊㊟	ヒヨシシカイナミ
	㊟※	コンパニオン
	㊥	ボールドエーカン
	※	スパートリドン
	※	スピードキリュウ
		ローベルギフト
		ハーバーシャレード
		ビゼンセイリュウ
		ファーストアモン

（47頭）

※牝馬　㊟抽せん馬
㊊父内国産馬　㊛公営出身馬
㊥外国産馬　㊞市場取引馬

三歳馬 今年は粒揃い

6月の札幌で始まった三歳戦も、暮れの朝日杯3歳S、阪神3歳Sで東西のチャンピオンが決定した。三歳馬は粒揃いで、'82年は楽しみ、と意見は一致した。

柴田 アンバーシャダイは有馬記念が大きなポイントとなるが、去年のホウヨウボーイと一緒でどうですか。

今原 61㌔でいいと思いますよ。カツラノハイセイコはアンバーシャダイより上にランクすべきでしょう。ただ、気になるとすれば、アンバーシャダイの有馬記念の実績が微妙になるよね。

小林 ジャパンカップのために、多少印象が薄いということはいえますね。63、62、61でいいでしょう。

吉田 ホウヨウボーイ63㌔、カツラノハイセイコ62㌔、アンバーシャダイの61㌔ということですね。

岡部 ホウヨウボーイでちょっとひっかかるのは、勝つべきところを負けているレースが二つあるんです。中山記念とオールカマーですね。

柴田 それと新聞の話題になっていたように牝馬によく負けているんだね。でも、AJCという立派な競走も勝っているからね。

吉田 格1の競走を秋に三回使って、能力を出している点も高く買っていいですね。いまでた三頭の評価は妥当な線ではないですか。

岩沢 このあとに続く馬が問題ですね。カツアールとモンテプリンスになりますか。

柴田 モンテプリンスは勝ってはいないけど、天皇賞二着、有馬記念三着というように、上位の馬と肉迫した競馬をやっている力は評価すべきではないかな。

今原 まったく去年と同じ見方になってしまうね。

甲佐 しかし、去年の場合はNHK杯とセントライト記念を勝ってますからね。

今原 とくにNHK杯の勝ちっぷりはよかったね。それと、ことしは、天皇賞で二頭抜け出したレースを見ると、ほかの馬とは力の差をはっきり見せているんですね。ホウヨウボーイにはかなわないけど。

吉田 宝塚記念を勝って天皇賞二着のカツアールと並んだ評価でどうですか。ゴールドスペンサーがからんできますか。

柴田 モンテプリンスとカツアールの60㌔で並びには賛成だね。ゴールドスペンサーはちょっと差があるのではないかな。ジャパンカップをどう評価するかが問題だけど、59㌔も無理なような気がするね。59㌔に該当する馬が見当らないんだ。58㌔〜57㌔にランクをつける馬は多いですけど。

甲佐 まずサクラシンゲキですね。スプリンターズS、京王杯を勝って安田記念が三着。それにジャパンカップの健闘が光りますね。

柴田 対照的なのがダイヤモンドS・ステイヤーズSのピュアーシンボリかな。

岩片 このあたりにくると、キタノリキオー、ウエスタンジェットをあげなければならないでしょう。キタノリキオーは春の実績が抜群ですし、ウエスタンジェットはアルゼンチン共和国杯と日経賞に勝っています。

甲佐 ウエスタンジェットはひとつ下という感じがするんですね。日経賞はメンバーも弱いし。

柴田 そうすると、サクラシンゲキとキタノリキオーを59㌔に評価出来るね。58㌔がウエスタンジェットということで。

岩沢 ゴールドスペンサーはどうなりますか。

今原 キタノリキオー、サクラシンゲキより下ですね。勝っていないし、モンテプリンスと比較しても、2㌔差はあるのではないか。

柴田 あとは、57㌔にドロッポロード、ウエスタンジョージと並ぶ感じですね。

甲佐 昨年のダービー馬・オペックホースがいますよ。今年は勝っていないが、有馬記念四着を評価して57㌔には並ぶでしょう。

小林 そうするとハワイアンイメージが57㌔かな。

岡部 私はピュアーシンボリ56㌔、メジロファントム57㌔と見ています。

ハギノトップレディ59㌔

柴田 牝馬はどうかな。ハギノトップレディ、ラフオンテース、ジュウジアローの三頭の比較は？

甲佐 東西通じてトップはハギノトップレディでしょうけど、どのあたりのランクにするか。59㌔くらい評価しても良いと思います。

今原 賛成。ラフオンテースは58㌔だね。

岡部 そのあとに関東のジュウジアロー、ハセシノブの57㌔が続くと思いますね。

ホクトフラッグは55㌔に

柴田 ことしの三歳馬は例年に比べて全体的な層が厚いし、力も持っていると思いますね。抜け出した馬はいないかもしれないけど、かなりの馬が揃っているといえるんじゃないかな。

岩沢 そのなかでも、ホクトフラッグを最上位にあげていいでしょう。函館三歳ステークスと朝日杯を勝っていますからね。重賞二勝は立派です。

岩片 関西でも素質があると思われる馬が順調にきています。リードエーティが重賞を二つ、ホクトマツシマが一つ、それと互角と見られるサルノキングの内容も悪くないですからね。

各務 サルノキングが阪神三歳ステークスに出てこなかったので、評価が難しくなっていますね。朝日杯と阪神三歳ステークスを比べてみると、出走馬の顔ぶれ、レースの内容、時計といったものが、馬場差を考えても朝日杯のメンバーの方がいいですね。それの勝馬ホクトフラッグを東西合わせて一番手にあげても文句はないでしょう。朝日杯は六着までが35秒台できている。阪神三歳ステークスのリードエーティが36秒4ですからね。しかも、リードエーティはサルノキングと決戦をしていない。以前に比べ折合いがつくようになり、成長は認めますが、関東勢がやや上と見ています。ただ、ほかにも、重賞に出るまではいかなかったけど、秋後半からキラリと光る馬が出てきていますね。層が厚いということはいえるでしょうね。

柴田 ことしは東西とも重賞がひとつできたことが大きな特徴ですね。夏場から意気ごみが違っていたでしょう。

今原 牡馬陣の充実が目立ちますね。ということは、京成杯、朝日杯を見ても分

かるとおり、牝馬の挑戦がほとんどない。わずかに京成杯のエタンシローとプリティヤングだけです。去年と比べると大変な違いですね。去年は京成杯三歳Sがタケノダイヤ、朝日杯がテンモンと、牝馬上位だったですからね。

岩沢　牝馬の代表はビクトリアクラウンがいますね。熱発などがあって朝日杯を使わずに三歳牝馬ステークスに回って勝っています。

今原　三歳牝馬ステークスは、重賞ではないけど、牝馬の総決算として、牝馬がこちらに回る傾向が出てきましたね。

甲佐　東西を比較すると、時計ひとつ違うのだから、差があると思います。関西ではむしろサルノキングとか、八百万を勝ったエリモローラに期待したいところがあります。

吉田　いずれにせよ、トップはホクトフラッグで異論はないでしょうね。

小林　どのあたりにランクするか、意見が分かれるでしょうが、私は55キロでいいと思っています。

柴田　ホクトフラッグは逃げ馬ではあるがかなり粘っこいレースをする馬だね。56キロの評価が出来るか、その辺の議論をしてみたら良いのではないか。

岩片　これまで56キロというと、ギャラントダンサー、バンブトンコート、キタノカチドキ、ヒデハヤテあたりのランクなんです。そこまでいけるかどうか。

甲佐　意見の分かれるところですね。無傷なら56キロでいいと思うけど。

今原　4戦3勝、二着1回、ただ、タイムは素晴しいですよ。中山の千六百メートルでは古馬を含めていちばんいい。

各務　三歳の場合は、55キロといってもかなり幅が広いんですね。とりまきというか、その次にくる層、つまり54キロ、53キロに入る顔ぶれと比較して、価値があれば56キロにいってもいいのではないかと考えますけど。

柴田　そうすると、トウショウペガサスとイーストボーイとの力関係を見なければならない。

岩片　関西ではリードエーティとサルノキングですね。

各務　サルノキングの扱いが難しいですけど、ホクトフラッグが55キロなら、リードエーティとサルノキングを54キロに並べようと考えていたんです。

甲佐　取ったタイトルだけなら55キロでもいいが、対戦相手、勝ち時計などを考えると、割り引いた方がいいと思いますね。

各務　関西勢は54キロから始めることになりますね。

岩片　三歳馬の場合は、実績プラス将来性を加味する必要がありますね。

岡部　今年のトップハンデは55キロで良いと思います。

今原　では、54キロがイーストボーイ、トウショウペガサス、リードエーティ、サルノキングですね。53キロがコウチオウショウにホクトマツシマ。

吉田　異議なしですね。

岩沢　ビクトリアクラウンの54キロはいけませんか？。

今原　4戦3勝。三歳牝馬ステークスでもまれた競馬をして、力のあるところを見せましたからね。それと、3戦3勝のニシノエトランゼです。

柴田　54キロというのはどうかな。ちょっと無理があるような気がしますね。というのは、去年のテンモンが朝日杯を勝って54キロですからね。

吉田　53キロというところじゃないかな。

柴田　そうだと思うよ。あとは、キョウエイダッシュ、コンゴウサバンナ、ダイワハヤブサ、ニットウオーカン、ニッポーホークなどがランクされるでしょう。

'81年のフリーハンデ

三歳馬(西)

54
- ㊥ サルノキング（チュデナム＝シギサン）
- リードエーティ（トライバルチーフ＝サンワチグサ）

53
- エリモローラ（イースタンフリート＝プティットデエース）
- ※ホクトマツシマ（トライバルチーフ＝ニューハード）

52
- カノウホマレ（クレバーフェラ＝ミネノアサカゼ）
- シルクテンザンオー（ファーストドーン＝ミスマルミチ）
- ㊋ スナークアロー（アローエクスプレス＝タカヨシビット）
- センターモア（スティンティノ＝ビアニシモ）
- ㊋※ ツキノトウショウ（トウショウボーイ＝ツキワカ）
- ㊥ ニシノノーザン（ニジンスキー＝サンバレイリンダ）
- ※ファンドリルビー（リマンド＝ファンドリクイン）
- ※ヤマノシラギク（オーバーサーブ＝ホンマルクイン）
- ㊋ ラッキーウルフ（アローエクスプレス＝タケエース）
- ワカテンザン（マイスワロー＝オキワカ）

51
- アグネスシャトー（シャトーゲイ＝クインリマンド）
- ※キークライネ（ブロント＝クイン）
- グレートスキー（マルゼンスキー＝リードガール）
- シンラーベル（ロードリージ＝サウンドラーベル）
- ㊋※ セレーザ（トウショウボーイ＝ツキフサ）
- タカノカイウン（オーバーサーブ＝サミースパータン）
- タニノダーバン（ダッパーダン＝タニノミント）
- タマエース（ボールドラッド＝マサヤス）
- ㊋ チェリーインパルス（タイテエム＝チェリーリマンド）
- ㊋ チェリーカツ（ロングワン＝ミスマウダ）
- ㊋ ヒミノスター（タイテエム＝ロングマニ）
- マサルオー（タイアトム＝エイトクラウン）
- ㊥ マンジュデンロッド（サンシー＝テンプルバンプー）
- ※㊥ ヤマニンベニー（ニジンスキー＝ロウワーライツ）
- ㊥ ロイヤルブラボ（ヴァルドロルヌ＝イースタンプランサー）
- ロングヒエン（ホープフリーオン＝セラ）

50
- ㊥※ アサクサセンサー（カピト＝カネスイート）
- イワキヒット（ボールドアンドフリー＝ジャプリンニセイ）
- インターベナント（シーホーク＝ヒダカチツ）
- ㊋※ ウーマンパワー（シルバーランド＝ヤマニサクラ）
- ※ オンザノーブル（ラナーク＝オンザマーク）
- ※ グロリーウエイ（イースタンフリート＝ミスエオス）
- ※ シンナデイアー（フォルティノ＝シンユミコ）
- スリーチーフ（トライバルチーフ＝サリュウリッチ）
- タケノエキスパート（オンリーフォアライフ＝サジタリア）
- ※ ネーハイサーブ（オーバーサーブ＝キチノメイジ）
- ハクサンタイコ（ハードツービート＝ゴールドランサー）
- ㊥ ハマノパレス（アイオニアン＝シーアン）
- ㊋ パワフルカイザー（キタノカチドキ＝ブラックスワン）
- ※ フクショウカマダ（コイルドシルバー＝サチカマダ）
- ※ ホーセイスキー（マルゼンスキー＝フジネバー）
- マサヒコボーイ（ハードリドン＝ハナカンザシ）
- マルシュウオーカン（ボールドアンドブレーブ＝メイホウ）
- ㊋ メイショウキング（タイテエム＝ペトレア）
- ㊋※ メジロカーラ（メジロアサマ＝メジロドーヤ）
- ※ ロングドーター（ハードリドン＝ロングジェスト）

（計50頭）

三歳馬(東)

55
- ホクトフラッグ（シャトーゲイ＝ノブボタン）

54
- ㊋ イーストボーイ（アローエクスプレス＝ノーヒメ）
- トウショウペガサス（ダンディルート＝ジアルトウショウ）

53
- コウチオウショウ（チャイナロック＝レディシウス）
- ㊥ ニシノエトランゼ（ストップザミュージック＝カムマイブリンス）
- ※ ビクトリアクラウン（ファバージ＝ワールドハヤブサ）

52
- アイリッシュドーン（シルバーシャーク＝ハワイアンドーン）
- キョウエイダッシュ（タンディ＝ヌーベルシロー）
- コンゴウサバンナ（ダイハード＝サバンナレデー）
- サクラサワヤカ（ホープフリーイン＝スワンズウッドクローバー）
- ジャパンラッド（ボールドラッド＝メイソング）
- ㊋※ スイートイブ（カーネルシンボリ＝スイートサファイア）
- セレタスポート（マルゼンスキー＝クリカマー）
- ダイワハヤブサ（ダストコマンダー＝ハヤブサアラナス）
- ダッシングハグロ（ダンシングキャップ＝ハニーフラワー）
- ニットウオーカン（コントライト＝ニットウヤヨイ）
- ㊥ ニッポーホーク（サンシー＝ヒデツバメ）
- ※ ファイブソロン（パーソロン＝ファイブドウター）
- モミジボーイ（パーソロン＝アルジナ）

51
- アカデミックボーイ（ホースト＝アカデミック）
- アサカシルバー（シルバーシャーク＝クインズベイ）
- ㊋ アサヒランサア（コーネルランサー＝シノブマサル）
- ※ アトムコーウン（タイアトム＝チェリーユキ）
- ㊋ アローボヘミアン（アローエクスプレス＝ラブリーソング）
- カムイラナーク（ラナーク＝マイションレイ）
- キオイリュウ（マイスワロー＝キオイフブキ）
- ㊋ クボノボル（キタノカチドキ＝ヒロヒカリ）
- ㊋ サンプーアタゴ（タイテエム＝サガニシキ）
- シオミブリンス（サウンドトラック＝リュウリボン）
- シュンプウ（ラディガ＝シュンセツ）
- ※ スペースシャトル（ノースオブザローン＝サイレントスノー）
- セクレテッドメグロ（クラウンドプリンス＝メグロガッサン）
- ダンサーズホープ（ノーザンテースト＝ホープトゥライズ）
- ダンサーズルーラ（マルゼンスキー＝ヒメジョー）
- ハーバーダンディ（セダン＝ハーバーパレス）
- ※ プリティヤング（フリートウイング＝シネマ）
- ㊋※ ブルバリーゼ（トレンダム＝ホクエイファイア）
- ㊋ リュウフレッシュ（リュウズキ＝リュウシャトー）
- ㊋※ リーゼングロス（アローエクスプレス＝タケノダンサー）

50
- アキビンゴ（イエバラ＝シンサカホープ）
- アズマハンター（ダストコマンダー＝ハンティングボックス）
- アスワン（ノーザンテースト＝リリーオブザナイル）
- ※ イタリアンシチー（チズコボーイ＝リンネス）
- ㊋※ エタンシロー（ダイコーター＝トキシロー）
- カネアスカ（バーバー＝エンプレスリージェント）
- ※ サクラテンセイ（フォワードパス＝サクライワイ）
- ㊋※ スイートモーリス（カーネルシンボリ＝スイートエイト）
- トウショウフレーム（ダンディルート＝サラ系シルバーフレーム）
- バウアーヌボーイ（シリコーン＝サラ系ヤマニフミ）
- マサンサバンナ（オーバーサーブ＝サラ系ショウビン）
- ※ モダンシロー（フォワードパス＝ニシノモアー）

（計51頭）

※牝馬　㊋父内国産馬　㊥外国産馬　抽抽せん馬　地公営出身馬　㊥市場取引馬